

スイングジャズに魅せられて

年末恒例の婦民コンサート、今年は楽しく軽やかにスイングジャズ、題して「スイングスイング スイング」

出演は、武田将さん（ビブラフォン）、袴塚淳さん（ピアノ）、小高正志さん（ベース）、八城邦義さん（ドラム）、そして上田亜紀子さん（クラリネット）です。代表して

こんにちは

上田亜紀子さんにスイングの魅力を語っていただきました。「クラリネットという楽器は、ベニー・グッドマン

が終わってビバップの時代になると、廃れてしまったように見られている楽器なのです。でも、今もスイングジ

津国際音楽アカデミー、その他国内外のマスタークラス、公開レッスンなどで研鑽をつんできました。現在は、

いに、ライオン音楽ピヤプラザなどに出演する中での「二重にお客様のリクエストです」との答え。結成八十年を超えるビッグバンド・ブルースカイオーケストラとの出会いや二



クラリネット奏者

上田亜紀子さん

ヤズまでの古い時代のジャズを大事にしているプレイヤーが多いんですよ」

上田さんは、東京音楽大学楽器科卒業。フランスに短期留学、草

数少ないマルチクラリネットプレイヤーとしてジャンルを超え活躍中ですが、もともとはクラシックの演奏者なのです。「なぜスイングジャズに？」との問

二歳位の時からピアノの上にのせておくと機嫌がいいという子どもで、実家のピアノの鍵盤の端には上田さんが噛んだ痕が残っているとか。音楽的に恵まれた家庭環境に育まれた。高校の吹奏楽部の活動の中で「クラリネットが一番自分に向いているように思えて」、音大も最初からクラリネット科に。

婦民コンサートでの演奏曲目は、「世界は日の出を待っている」「スターダスト」「あなたの思い出」など。「武田さんも袴塚さんも小高さんも八城さんも、個性と経験豊かな演奏者です。聴いてください」と上田さんは力をこめました。

群馬県足利市出身。